第1章　広域的位置づけ

１．つるぎ町の広域的位置づけ

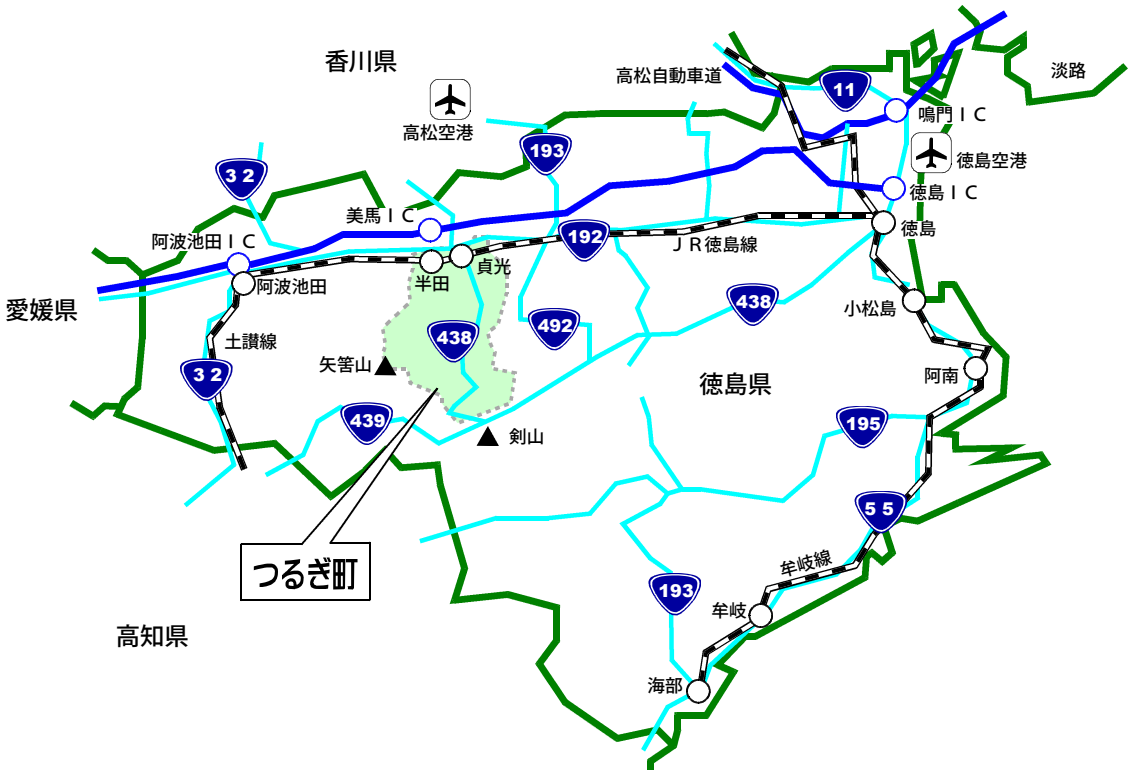
(1)広域的位置

つるぎ町は徳島県の西部地域に位置し、美馬市・三好市・東みよし町に接しています。徳島市からは約 50km、香川県高松市からも約 50km の距離にあり、自動車で 1 時間 30 分程度の時間が必要です。

また、京阪神方面へは徳島道から神戸鳴門自動車道を利用して 3 時間程度、中国地方へは国道 438 号と瀬戸大橋自動車道を経由して 2 時間程度必要です。

東京へは JR を利用した場合、岡山県から新幹線に乗り換え 4 時間程度、航空機を利用した場合は高松空港から 1 時間となっています。

徳島県西部地域の美馬市・つるぎ町・東みよし町・三好市は、平成 20 年度に「にし阿波観光圏」として国土交通省から認定を受けました。テーマを「歴史や伝説に彩られた日本の原風景の中で過ごす心豊かな時間の創造」として、観光を中心とした広域的地域振興を進めています。



2．つるぎ町をとりまく社会情勢

都市をめぐる社会経済状況は、経済・社会が成熟し人口のピークも越え、都市が拡大する「都市化社会」から産業や文化等の活動が都市を共有の場として展開する「都市型社会」へと移行したと言われています。

一方、つるぎ町のおかれた状況は、すでに突入した高齢社会への対策や少子化の進展、住民の価値観の多様化、高度情報化への対応等、地域住民と一緒になって地域特性に応じたまちづくりを進めることが重要となっています。

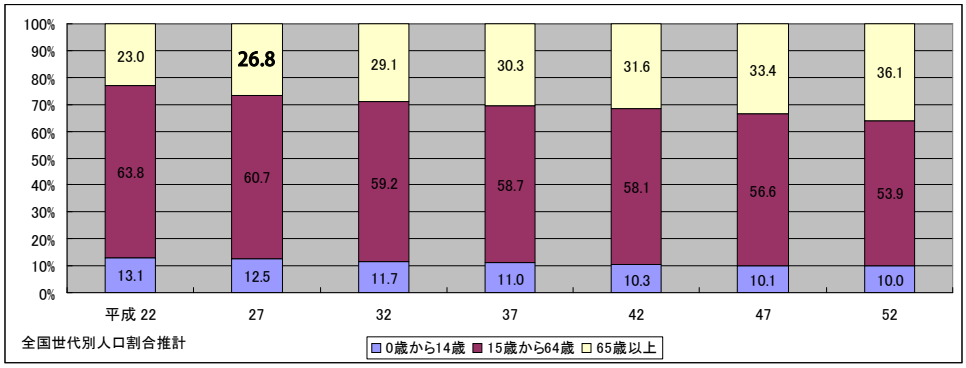
(1)少子高齢化にともなう人口減少の進展

子供の数が高齢者人口よりも少なくなった社会を「少子社会」と呼び、我が国では平成 9 年から少子社会となりました。平成 27 年には全人口の 26.8%、3.7 人に 1 人が 65 歳以上となり、かつてない少子高齢時代が到来すると言われています。

つるぎ町においては、平成 22 年の国勢調査によると 65 歳以上人口が約 40%と全国よりも速いスピードで少子高齢社会に突入しており、その後も高齢化率は上昇し平成 52 年には 48.5%になると予想されています。

このような社会では、生産人口の減少、年金や介護への現役世代と行政への負担の増加、地域社会の活力低下が進むため、行政の維持が不可能となる限界自治体という状態にまでなることがあります。

以上の状況に対応するには、少子高齢社会に対応する経済構造の基盤づくりや、公共投資の重点化・効率化等が求められ、高齢者や女性の社会参画を支える就業環境や子育て環境、生活環境づくりを進めることが必要です。



つるぎ町人口推計	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年
総数	10,490	9,294	8,242	7,266	6,392	5,631	4,942
0～14歳（人）	956	752	584	489	418	365	323
15～64歳（人）	5,347	4,582	3,913	3,319	2,913	2,549	2,221
65歳以上（人）	4,187	3,960	3,745	3,458	3,061	2,717	2,398
75歳以上（人）	2,580	2,476	2,239	2,098	2,003	1,881	1,648

	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年
年齢別割合（0～14歳：%）	9.1	8.1	7.1	6.7	6.5	6.5	6.5
年齢別割合（15～64歳：%）	51.0	49.3	47.5	45.7	45.6	45.3	44.9
年齢別割合（65歳以上：%）	39.9	42.6	45.4	47.6	47.9	48.3	**48.5**
年齢別割合（75歳以上：%）	24.6	26.6	27.2	28.9	31.3	33.4	33.3

※資料は、国立社会保障･人口問題研究書推計人口

(2)低迷する経済と地方分権の推進

バブル経済の崩壊からリーマンショックへと続く経済の低迷期は、産業の空洞化をまねき地方都市からの企業の撤退や進まない企業誘致など、経済発展や雇用の場を外部にゆだねることが難しくなってきました。

このような状況のなかでは、地域の産業を地域全体で支えるとともに総合的・複合的な振興施策による賑わいと活力のあるまちづくりが求められています。

また、地方分権は急速に進んでおり、これまでのような中央行政に頼ったまちづくりでなく、限られた財源のなかで独自の発想や工夫が必要となっています。

(3)防災や環境等の安全安心への感心の高まり

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、自然災害の猛威に対して防災対策の考え方や行動について根本から考えさせられることとなりました。徳島県においても今後 50 年以内に 90%の確率で発生するであろうと言われている南海・東南海地震について早急な対策が求められています。

つるぎ町においては、津波被害の可能性は少ないと思われますが地震による山腹崩壊や家屋の倒壊が発生すると予想され、集落が孤立した場合の対策や災害情報の早期収集と対応策の検討は喫緊の課題のひとつです。

当然に、住民の安全安心への感心も高まっており、災害時の避難経路の確保や災害危険箇所の改修など防災や都市環境等の整備が急がれます。

また、東北地方太平洋沖地震による原子力発電所の放射能漏れ事故は、環境問題を身近なものとする人々の関心が一層高まりをみせています。次代に良好な環境を引き継ぐために環境保全や環境への負荷の少ない循環型社会を構築する必要があります。

(4)ライフスタイルの多様化と協働によるまちづくり

生きがいや働き方、社会と個人の関係など、様々な生活の形態・様式で価値観が多様化しています。個性を尊重し「こころの豊かさ」や「生活の質」などの住民のニーズを踏まえた施設整備や情報提供が必要です。その際には、住民のひとり一人が主体的に参画し、様々な地域課題の解決にむけて行政とともに活動する協働のまちづくりが望まれます。

また、価値観の多様性の一方で、地域固有の歴史・文化を継承し、地域としてのアイデンティティーも確立しなければなりません。

(5)高度情報化の時代

通信技術の進歩により ICT は社会の中で必要不可欠のものとなりつつあります。つるぎ町では町内の全地域に光ケーブルを敷設し、インターネットはもちろん ICT 技術を利用した無料電話と TV の視聴を可能としています。

今後は、防災や福祉等における ICT の活用を図るなど住民サービスの向上に向けた取組が求められています。

高清大杉